

のはこんな「歯」です。

親知らず



親知らずの生える方向により、隣の歯を押して歯並びが悪くしたり、むし歯をつくったりすることがあります。

重度の歯周病



歯と歯ぐきの境目から細菌が入り込むことで発症する歯周病が進行した状態です。歯を支える骨を溶かして歯がグラグラしたり、抜けてしまったりします。

※炎症が強い場合は、投薬などで炎症を抑えた後に原因の歯を抜歯します。

重度のむし歯



むし歯が進行し、白い部分が大きく浸食され「むし歯を削って詰める」「かぶせ物をする」といった治療が難しい状態です。

株式会社 ジーシー

抜歯

したあとは
どうするの？

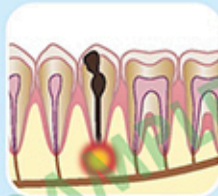


抜歯しなければならない

歯根嚢胞 (しこんのうほう)

歯の根(歯根)の先端に膿の袋(嚢胞)がつくられ、歯を支えている骨(歯槽骨)を溶かします。

※抜歯をしないで歯肉を切開し、溶けた骨をきれいに削って嚢胞を取り除く場合もあります。



破折 (はせつ)

事故などの外傷や喰いしりなどにより、歯が折れたり、割れたりすることがあります。歯だけでなく、顎の骨の骨折を伴うこともあります。



矯正

矯正治療の中で、歯を動かすスペースをつくるために「便宜抜歯」を行うことがあります。



※事故などで完全に抜けてしまった歯は捨てずに、乾燥させないように食塩水(1Lの水に9gの食塩を混ぜた濃度の水)や牛乳に漬けて、歯科医院に持参しましょう。歯が抜けた穴に戻って固定することで、定着する可能性があります。

テルプラグ

保険適用外



抜歯スペースに充填して、止血、疼痛緩和など傷口を保護、肉芽形成を促す材料です。



抜歯をした後に抜歯スペースに詰め、歯ぐきの陥凹が防止できるように肉芽形成を促す、コラーゲン製抜歯創用補填材です。

特性

- アテロコラーゲンを原料としているため、抗体をつくることなく、抜歯スペースに詰めたままで取り出す必要がありません。
- 熱で架橋を導入しているため、アテロコラーゲン本来の生体親和性が損なわれていません。
- 抜歯スペースに詰めることで止血、迷入の防止など傷口を保護し、肉芽形成を促します。
- アテロコラーゲンの原材料は、オーストラリア産の若いウシの皮です。皮を採取する工程で、感染危険部位の混入防止を行うことなどにより、BSE(狂牛病)への安全性は発売当初(1998年)から保ってきています。
- 歯槽骨の吸収を防止し、歯ぐきの陥凹が防止できるように、肉芽形成を促します。

抜歯治療の流れ

※イラストは全てイメージです。

治療例1

抜歯後、そのまゝの場合



治療例2

抜歯後、「テルプラグ」を使用した場合



出血を抑え、食べ物などの侵入を防ぎ、腫れや痛みなどの不快感が和らぐように保護します。本品内に周囲の組織や血管が入り込み、骨や歯肉の陥凹が予防できるように、肉芽形成が促されます。



ブリッジ

抜歯した両隣の歯を削り、連続したかぶせ物を固定します。



食べ物が挟まりやすくなったり、歯磨きが難しくなる場合があります。

ブリッジ



食べ物が詰まりにくく、歯みがきしやすい環境です。

インプラント

インプラントを骨に埋め込み、その上にかぶせ物を取り付けます。



別途、骨をつくる手術が必要になる場合があります。

インプラント



インプラント治療に適した口腔内環境です。

入れ歯

骨と歯肉を土台として、歯肉と吸着させます。



土台が低い場合、入れ歯が安定しない場合があります。

入れ歯



入れ歯が安定しやすい環境です。

ご使用上の注意

- 次のような方は本品を使用することができません。事前に担当医にお申し出ください。
 - 以前に本品や他のコラーゲン製の材料による治療を受けて、発疹やかゆみなどが出たことがある方。
- 次のような方は事前に担当医に相談してください。
 - 喘息や麻疹などを起こしやすいアレルギー体質の方。(慎重に使用する必要があります。)
 - 妊娠している、または妊娠の可能性がある方。(使用経験がありません。)
- 使用中に次のような症状が出たら、担当医に相談してください。
 - 発疹やかゆみなどが出た方。(使用を中止する必要があります。)
 - 急激に熱が出た方。(感染が疑われます。抗生剤の投与など適切な処置が必要です。)
- 他に体の異常を感じたら、担当医に相談してください。

抜歯にあたっての一般的な注意

- 抜歯は麻酔をかけて行います。以前に麻酔を受けて、発疹やかゆみなどが出たことがある方、高血圧・動脈硬化・心臓病・糖尿病などの方は事前に担当医に相談してください。
- 指や舌や歯ブラシで抜歯したところを触らないようにしましょう。
- 抜歯後2～3時間は食事を避けましょう。
- 抜歯当日は入浴、飲酒、過度の運動などを避けて安静を保ちましょう。
- 縫合した時は、3日後～2週間後に抜糸を行います。
- 抜歯後の治療期間や処置の方法は患部(抜歯創)の状態や患者さんによって異なりますので、記述の内容と異なる場合や記述にない内容については、担当医の指示に従ってください。